

青梅市吉川英治記念館の魅力について語っていただきました！

今年から始まった青梅市吉川英治記念館ガイドボランティアについて、ボランティアの岡 光雄さん、太田順一さん、吉村正久さんにお話を伺いました。

(文中のガイドボランティアの敬称略)

柚木町に吉川英治記念館を残したくて

ーガイドボランティアに申し込まれたきっかけは？

吉川英治記念館が吉川英治国民文化振興会から市の方に寄付を申し入れた新聞の記事を見ました。そこで、ぜひ柚木町に記念館を残してもらいたくて、先頭に立って、寄付を受け入れてもらうよう市にお願いに行きました。ガイドボランティアの募集の時にもすぐ応募しました。(岡)

妻が「応募してみたら」ということでガイドボランティアに申し込みました。やってみてすごく面白い楽しいですね。いろいろな方々のご質問を受けると、まだよく知らないことも多く、勉強することで吉川英治先生についての知識が広がり、それが生かせればいいなと思っています。(吉村)

記念館を盛り上げて一人でも多くのお客様に来ていただき、先生の良いところを伝えたいと思い応募しました。一番好きな言葉は先生が好んだ「吾以外皆吾師^{われいがいみなわがし}」という言葉です。先生は本当に謙虚な方で、その言葉を基にこれからも記念館を訪れる方に、元気で気持ちの良いガイドをしたいと思っています。(太田)

梅まつりとともにガイドを始めて

ー現在のガイドボランティアの活動状況について教えてください。

現在11人がガイドボランティア登録をしています。地元の方もいれば、地元企業に勤めている方もいます。2月から3月にかけて梅まつり期間中に初めてガイドボランティアを始めました。今秋に同じような形でガイドを行う予定ですが、今はその間ということでも不定期にできる人が交代で、土・日・祝日にやろうということで行っています。

内容としては主屋、それから長屋門等の建物の説明、それから庭園の説明を主に行っています。ガイドの中で、先生の個人的な話も織り交ぜています。(岡)



△インタビューに協力いただいた青梅市吉川英治記念館ガイドボランティアのみなさん
左から太田順一さん、岡 光雄さん、吉村正久さん

先生の自叙伝「忘れ残りの記」には子どもの頃から四半世紀、その後、お父さんとお母さんがお亡くなりになった時のことが書いてあります。非常に苦労されて、小学5年生の時に学校を辞めさせられて奉公に出たという等々のお話があり、読んでいて涙が出てくるような部分も多々ありました。個人的にお勧めしています。(岡)

先生のお勧め作品「忘れ残りの記」



ーガイドにあたり先生の作品は読まれましたか？

先生の作品は、当初「宮本武蔵」ぐらいしか読んでことがなかったのですが、他の作品も知ろうと思い、「新・平家物語」、「私本太平記」、「太閤記」、「三国志」とかいろいろ読みました。その後、先生に関する伝記も読んだりして、自分なりに勉強してきたつもりです。

一期一会の出会いにやりがい

ーガイドして印象に残ったことはありますか？

梅まつりのとき、20組ほどガイドしたのですが、市内の方は2割ぐらい。市内の方が多く見られるのかなと思ってたのですが、意外とほかの地区の方が多いなと思いました。先生はある意味で全国区だなと思いました。

印象に残ったことと言うと、名古屋から来られた方は、先生の作品の挿絵をいつも書かれていた



吉川英治 (1892~1962)



写真提供 (公財) 吉川英治国民文化振興会

吉川英治は、昭和19(1944)年に青梅市吉川英治記念館が建つ、西多摩郡吉野村(現在の青梅市柚木町)に転居し、約9年間、地域の方々との交流を大切に、家族とともに生活していました。吉川英治は主屋を「草思堂」と名付け、ここで代表作「新・平家物語」などを執筆しました。

吉川英治は、昭和37(1962)年にこの世を去るまでに「三国志」、「新書太閤記」、「宮本武蔵」、「私本太平記」など多くの歴史・時代小説を残し、現在まで読み続けられています。

昭和35(1960)年には文化勲章を受章し、昭和37(1962)年には市で二人目の名誉市民となりました。

青梅市吉川英治記念館

吉川英治記念館は昭和52年より財団法人吉川英治国民文化振興会により運営されていましたが、令和2年4月に青梅市に寄付され、同年9月7日に市の施設としてオープンしました。

住所 〒198-0064 柚木町1-101-1

電話 ☎74-9477

開館時間 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

観覧料 大人500円、小・中学生200円



◁年間パスポート販売中!

大人1,400円、小・中学生500円で1年間何度でも入館できます。